

### 第3次中野区民地域福祉活動計画「いきいきプラン」第2期実施計画素案への意見集約

意見集約期間 2018（平成30）年11月15日～12月28日

意見集約方法 中野社協ホームページへの掲載

ハピネスなかの12月号に素案への意見集約の記事の掲載

中野区町会連合会、民生児童委員協議会での説明

地域での会合や関係機関の会合での説明

第5回なかの地域福祉推進フォーラム参加者との意見交換

寄せられたアンケート回答数 19件（電子メール5件、窓口6件、FAX8件）

#### 第2期実施計画素案について

主な意見	社協の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「住み慣れた地域で暮らし続けられる共生社会の構築」には、高齢者のみへの地域包括システム構築は、老いも若きも目指したい社会の目標だと思います。「社会的孤立を生まない人と人がつながる地域づくり」は、誰もが望む温もりのある人間関係の社会を根付かせる大きな柱となると思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「社会的孤立を生まない人と人がつながる地域づくり」は、第2期実施計画の中でも引き続き取り組んでいきます</li> <li>● 第2期実施計画では、「MEをWEにする」をキャッチフレーズに、中野版の地域共生社会を目指していきます</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● アウトリーチチームやエンディングノート等知っている方は把握できても、知らない方が読んでもなんのことだかさっぱりわからないので、簡単な説明があると親切だと思いました</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 用語説明を第2期実施計画の中に追加します</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● いざという時には頼りになるような関係をどの様に作るのか。いくつか具体的な展開策は考えられるでしょうか、出来るものから優先順位をつけて取り組んでいくようにするしかないように感じます</li> <li>● 若い世代や子育て世代などに着目した視点も大事ではないでしょうか</li> <li>● 「場づくりに」力を集中するのはどうでしょうか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今まで進めてきた「居場所づくり」の強化など効果的な取組みを考えていきます</li> <li>● 若い世代や子育て世代などの視点も重要と考えております</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第2期実施計画素案からは、何ら具体的に訴えるものが見えてこなく、かつ文面からは伝わってまいりません。それは、第2期実施計画素案も第1期実施計画の成果の箇所で具体的な数値や事例が欠けていたことを踏襲されておられるからではないでしょうか。できた成果と至らなかったことは記載されておられますが、何が問題でどの点が課題なのか伝わりません。例えば、子どもの貧困問題があります。中野区が「子どもの貧困問題」に特化して、取り組んでいくことで、具体的な像が見え、素案に血と肉が宿り、成果が出せる地域づくりが目指せるのではないかと考えます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1期実施計画の成果に、実績を追加します</li> <li>● 第2期実施計画での地域課題について、客観的な数値とヒアリング及びアンケート調査から再度整理します</li> <li>● 子どもの貧困課題は、第2期実施計画の重要な地域課題と認識していますので、具体的な取組みに反映していきたいと思います</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1期実施計画の総括を踏まえて第2期実施計画と考えるが、総括を取り組む課題（アンケート結果から）とした場合、取り組む課題と第2期実施計画の重点目標（活動目標）とのつながり、関連性がわかりづらい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1期実施計画と第2期実施計画との関連性について、再度整理して記載します</li> </ul>
--	--

### 重点目標に基づく取り組みについて

重点目標全体についての意見	社協の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 重点目標を新たに設定する必要はあるのでしょうか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 基本目標の実現をより一層可能とするために第1期実施計画の4つの重点目標を進化させ、2つの重点目標に重点目標4つの要素をまとめました</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 数値目標はないのですか</li> <li>● 取り組みは具体的にありませんか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 数値目標と具体的な取り組みについて検討し、第2期実施計画に追加します</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 区民・社協・関係機関の取り組みと行政の取り組みの関連性は。区民と行政の連携などを明確にするためにもお互いの取り組みの関連性を整理する必要があると思います</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第2期実施計画の中で、それぞれの立場での取り組みを記載し、相互に連携を図っていく事を追加します</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● まちづくりとの連携は意識していますか。やや福祉に特化しているように思われるので、まちづくりや防災の視点をぜひ入れていただければと思います</li> <li>● もっと具体的な展開を示してほしい</li> <li>● 「地域のつながり」という言葉自体が苦手な高齢者や孤立している方々もいます。そこには、「支援」や「助ける」というニュアンスに抵抗感を持つからだと思います。「助けてと言にくい」とこちら側が想定している姿勢からして受け付けない人もいます。相手ともっとフラットな関係を築く必要があると思います</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 具体的な取り組みを検討する中で、福祉分野だけでなく、様々な視点を取り入れたいと思います</li> <li>● 支援する側・助けられる側という関係だけでなく、お互いが必要な時には助けあうという視点は重要と考えております</li> </ul>

重点目標① 参加するほど楽しくなるまち NAKANO についての意見	社協の考え方
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 今までにかかわったことがない人に届く情報発信。チラシなどを見て、参加したい、これならばできそうと思えるようなもの。目標への取り組みはわかりやすいと思いますが、理想で終わらせないでほしい</li> <li>● 区民の各世代にわたり、助け合いの心をいかに根付かせていくか</li> <li>● 子どもの貧困問題に挑戦することで地域づくりができると考えます。ボランティアの経験や力が「子どもの貧困問題」に力を発揮し、新たなまちのコミュニケーションにつながると思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 多くの区民の皆さんが参加することが重要です。「MEをWEにする」というキャッチフレーズで区民への浸透を図ります</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域参加について「時間がない。余裕がない。」というのは、今の時代当然です。気持ちがあっても手を挙げてしまうと「実際は出来ないの、迷惑をかけるかも、そしたら自己嫌悪に陥る。だから静観しよう」という人が多いでしょう。そこで、「できることだけをする」を徹底して訴求したほうが良いと思います。ここで大事なのは「支援を必要としている人」や「孤立している人」とこちらが思っている人たちも同等に捉えることです。彼らも「できることだけをしてくれる人」の発信者になれば、フラットな関係が始まります。</li> <li>● 知的障害のある家族のことを隠したい。「本人が行かない！」と言うので参加できないなど、なかなか参加に結び付かないケースもあると思います。直接的な参加でなくても、間接的に交流やつながりができる何かがあると良いと思います（例えば、画や書を募集して施設に飾るなど）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 活動に参加する人は、「支援を必要としている人」や「孤立している人」とこちらが思っている人も含め、様々な人ができる範囲で行うことが重要と認識しています</li> <li>● 活動だけでない参加の仕方も工夫していきたいと思います</li> </ul>
--	--

<p>重点目標② 多ジャンル共生でつくるまち NAKANO についての意見</p>	<p>社協の考え方</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● インターネットや SNS を活用した情報発信は、利用しやすいと思いますが、困っている人が探しやすい工夫や SOS を見逃さないことも大事になってくると思います</li> <li>● 情報発信にインターネットや SNS の活用も有効ですが、パソコンが苦手な方やそもそもわからない方もいるので、やはり紙媒体が有効だと思います</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 情報発信の方法も年代やその人に合わせた形が必要と認識しています。多様な方法での発信を考えていきます</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業の活用に期待しすぎてはいけない</li> <li>● 「子どもの貧困問題」に関わる企業や団体は数多くあると思います。それを区として掲げることで、全体としての対応が明確になり、支援する側も得意分野をいかせると考えます</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 企業だけに頼るのではなく、多ジャンル共生というように、企業も含めた様々な団体と一緒に中野のまちを作っていく事を目指しています</li> </ul>

### 計画素案から計画案への主な変更点

- 第 1 章：第 1 期実施計画の成果と課題の部分に、5 年間の取り組みの実績を加えました
- 第 2 章：第 2 期実施計画で取り組む地域課題について、第 1 期実施計画の成果と課題を踏まえ、現状の客観的数値を加えた上で、再度課題を整理しました
- 第 4 章：第 2 期実施計画の取り組みについて、具体的な取組み内容を記載し、数値目標を追加しました
- 専門用語がわかりにくいので、第 2 期実施計画に用語説明を加えます